平成１７年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

（整理番号）	提案機関名	湘南地域農業改良普及センター
６６ ※記入不要		

要望問題

施設キュウリにおけるつる枯病等の病害対策の確立

要望問題の内容　【　背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等）】

施設キュウリ栽培では、つる枯病、菌核病、灰色かび病など茎部に被害を及ぼす病害による被害が問題となっています。
農薬散布による予防や耕種的な防除対策はありますが、薬剤による治療的な防除法は確立しておりません。
キュウリの場合には作期も長く、予防的防除法の他に治療的防除法の確立も重要と考えられます。
キュウリでは、現在「トップジンMペースト」が治療的な塗布剤として登録されていますが、他剤の使用も含めた防除対策の確立が求められています。
なお、同様の病害は露地キュウリ及びメロン（施設・露地）でも発病することから対策の必要性は大きいものと考えられる。
昨年「実施中」の回答をいただいておりますので、その後の進捗状況についてご報告願います。

ＪＡ湘南施設野菜部会　１１３名　2,２５８ａ

解決希望年限	①１年以内　②２～３年以内　③４～５年以内　④５～１０年以内
研究対応区分	①研究所対応　②委託研究　③共同研究　④その他
対応を希望する研究機関名	①農業総合研究所（ ②根府川試験場　③三浦試験場　④津久井試験場 ） ⑤畜産研究所　⑥水産総合研究所（ ⑦内水面試験場　⑧相模湾試験場 ） ⑨自然環境保全センター

※　ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	農業総合研究所
部　　署：農業環境部	
対応区分	①実施 ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可
試験研究課題名　（①、②、④の場合）	

対応の内容等

現在キュウリにおけるつる枯病について登録が取れている農薬は、予防的に用いて効果があることをうたっています。新農薬の登録促進を図る他、ウリ科つる枯病について登録拡大目的の農薬や新農薬について、治療効果の情報を農薬メーカーから集めます。
メーカーに問い合わせしたところ、ペースト型の農薬を製品化しようとしている所はありませんでした。まずメーカーの方にペースト型農薬の需要についての情報がないようなので、つる枯病等に関しては登録があれば使いたい旨を伝えてあります。
情報を収集し、農薬の登録促進に努めます。

解決予定年限	①１年以内　②２～３年以内　③４～５年以内　④５～１０年以内
備　考	